

Vol. 70

CONTENTS

【コラム】大学入試改革事業関連の概要… 角田 博保

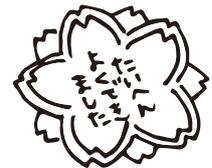
【解説】次世代電子学習環境（NGDLE）に向けた国際標準化の動向… 山田 恒夫 常盤 祐司 梶田 将司

【解説】AXIES & 一般情報教育委員会レポート—シンポジウム「これからの大学の情報教育」参加報告—… 高橋 尚子

COLUMN



大学入試改革事業関連の概要



次期学習指導要領の改訂に応じて、大学の入試改革が計画されている。大学入学者選抜改革推進委託事業が文部科学省で計画され（3年間）、2016年6月に募集があった。多面的・総合的評価の推進に資する先進的な評価手法等を開発し、これを各大学の個別の入学者選抜に普及させていくことにより、高大接続改革答申が掲げる「学力の3要素」、つまり、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、を確実に把握する多面的・総合的な評価を推進することを目的とし、人文社会分野、理数分野、情報分野、および、主体性等を評価する分野についての募集である。このうちの情報分野に対して、大阪大学を代表校とし、東京大学と本会（活動母体は情報入試委員会）が連携大学等として応募し、採択された。事業名：情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発である。

以下の4つの項目について研究開発に取り組んでいる。(1)「情報科」入試実施における評価手法の検討、(2)「情報科」CBT（Computer Based Testing）システム化に関する研究、(3)情報技術による入試の評価に関する研究、(4)広報活動と動向調査研究。思考力・判断力・表現力を評価する手法の検討とCBT化が主な柱となっている。

本稿では、2016年度の活動の概要について述べたい。実質的な活動は契約が締結された10月からで、以降1カ月に1回の割合で、宿泊を伴った会議（おおよそ20人）を開いている。

評価手法としては、(1)次期学習指導要領を加味した知識体系の整理、(2)情報科での「思考力・判断力・表現力」評価手法の検討を行い、その評価のために、模擬試験の問題作成を行っている。2017年度試行試験を実施し、その結果を基に、提案評価手法について評価することになる。

CBTシステム化としては、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価するためのCBTの機能性検討を行っているが、まずは2017年度の試行試験のために、必要最小限の機能を持つ「情報科」試行用CBTプロトタイプシステムの仕様作成および実装を行っている。また、実際の成果、経過を発表するための企画の提案、諸外国の情報入試に関する動向調査も行っている。

思考力・判断力・表現力を問う問題の作成指針を作りあげるのはなかなか難しい。試験問題を作り、実際に使用した結果を基に評価する必要がある。今後、試行実験への多くの方々の協力を期待している。

角田博保（本会情報入試委員会委員長）